

## 3 章 発泡スチロールを用いた 超軽量盛土工

### 3.1 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

## 3章 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

### 3.1 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

#### 1. 適用

超軽量材としての発泡スチロールを盛土、擁壁および橋台等の抗土圧構造物の裏込め等に使用する発泡スチロール工を人力で施工する場合に適用する。

#### 2. 数量算出項目

軽量盛土（発泡スチロールブロック）、コンクリート床版の数量を区分毎に算出する。また、壁体構造（壁面材設置）の場合は、基礎コンクリート、支柱、壁面材についても区分毎に数量を算出する。

- 注) 1. 軽量盛土（発泡スチロール）の排水材（不織布：厚さ10mm以下）、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、敷砂（敷均し厚10cm以下）については必要の有無を確認する。  
また、基礎砕石（敷均し厚20cmを超える場合）については、注) 2により別途数量をとりまとめるものとし、排水材（不織布：厚さ10mmを超える場合）、敷砂（敷均し厚10cmを超える場合）については別途考慮するものとする。
2. 基礎砕石については、「第1編（共通編）9. 1 砕石基礎工」によるものとする。
  3. コンクリートについては、「第1編（共通編）4. 1 コンクリート工」によるものとする。
  4. 鉄筋については、「第1編（共通編）4. 3. 1 鉄筋工」によるものとする。
  5. 型枠については、「第1編（共通編）4. 2 型枠工」によるものとする。

### 3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	必要性の有無	単位	数量	備考
軽量盛土（発泡スチロールブロック）		○	—	m <sup>3</sup>	○	
排水材 (不織布)	厚さ10mm以下	×	○	—	×	
	厚さ10mm超え	○	—	m <sup>2</sup>	○	
基礎 砕石	敷均し厚20cm以下	×	○	—	×	
	敷均し厚20cm超え	○	—	m <sup>2</sup>	○	
敷砂	敷均し厚10cm以下	×	○	—	×	
	敷均し厚10cm超え	×	—	m <sup>3</sup>	○	
コンクリート床版		○	—	m <sup>2</sup>	○	注) 2
床版コンクリート		○	—	m <sup>3</sup>	○	注) 3
溶接金網		○	—	m <sup>2</sup>	○	
支柱結合アンカー		○	—	本	○	※10m <sup>3</sup> 当り数量を算出
基礎コンクリート		—	—	m	○	
基礎砕石		○	—	m <sup>2</sup>	○	
コンクリート		○	—	m <sup>3</sup>	○	
鉄筋		○	—	t	○	
型枠		○	—	m <sup>2</sup>	○	
支柱		○	—	本	○	
壁面		—	—	m <sup>2</sup>	○	
壁面材		○	—	枚	○	※10m <sup>2</sup> 当り数量を算出
壁面材固定金具		○	—	個	○	※
裏込砕石				m <sup>3</sup>	○	
盛土高6m以下		○	—	m <sup>3</sup>	○	
盛土高6m超				m <sup>3</sup>	○	

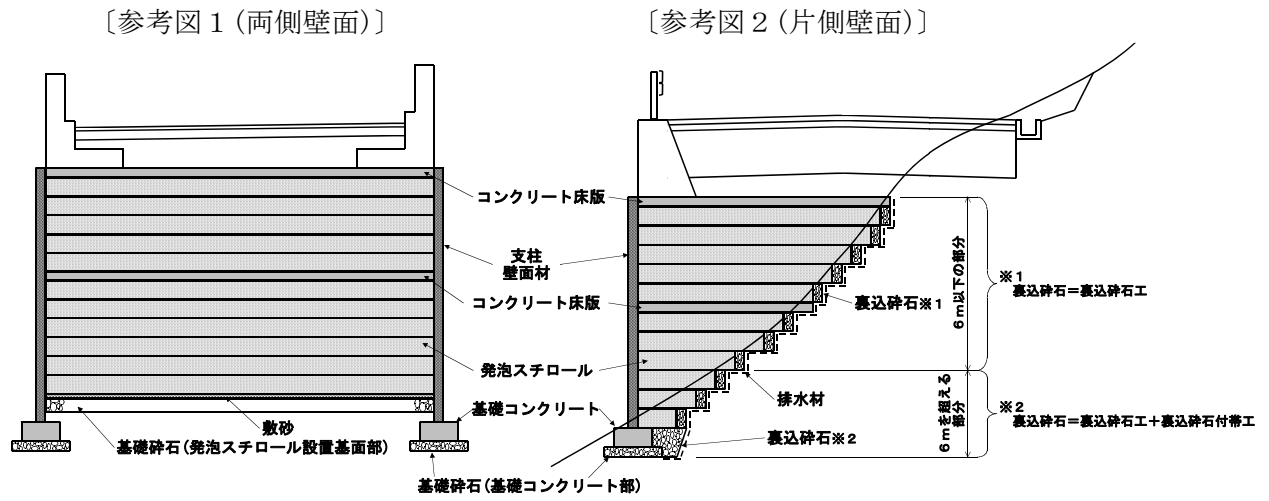
- 注) 1. 必要に応じて各項目毎に数量を算出する。  
 2. コンクリート床版の規格は厚さとする。  
 3. 圧送管延長がコンクリートポンプ車から作業範囲30mを超える場合は、圧送管組立撤去の延長を区分する。

### 4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。

## 5. 参考図

### (1) 壁体構造を伴う場合



### (2) 壁体構造を伴わない場合

